



第31回日本在宅ケア学会学術集会 実践報告の演題登録をお考えの方へ

暮らしの場を支えるケアの実践報告の演題を広く募集します。

暮らしの場とは、自宅や地域をはじめ、グループホームや施設、外来・療養移行支援などあらゆる場を意味します。

学会での実践報告で現場での経験を振り返り、日々のケアに活かしましょう。

演題登録期間: 2026年2月9日(月)～5月22日(金)

Q. 日本在宅ケア学会への入会は必要ですか？

A. はい。筆頭発表者は学会発表時に会員である必要があります。共同発表者はその限りではありません。

Q. 演題内容は、倫理審査が必要ですか？

A. 必ずしも必要ではありませんが、倫理的配慮を行なった旨を演題登録画面で選択してください。

Q. 演題登録ができる職種は決まっていますか？

A. いいえ。在宅ケア・地域ケアに関わるすべての職種(医療者, ケアマネージャー, 介護職, 福祉職, 施設職員等)の方を歓迎します。

Q. 実践報告は事例報告でも良いですか？

A. もちろんです。看取り・多職種連携・成功事例・困難事例などの事例報告のほか、活動・取り組みなどもご発表できます。

Q. 査読審査はどんな審査基準なのですか？

A. 以下の基準に沿って2名以上の審査員で審査します。

演題審査基準

- ・文章がまとまっているか
- ・課題は適切か
- ・在宅ケア・地域ケアへの示唆、展望はあるか





実践報告抄録作成ガイド

実践報告の構成は、【目的】【事例(もしくは活動)の概要】【結果】【考察】です。
下記は一つの参考例として、ご活用ください。

【目的】

報告する在宅ケア・地域ケアに関する実践の背景を簡単に記載してください。
その上で実践を報告する目的について記載してください。

- 例) 「本実践報告の目的は、〇〇である」
「本報告は〇〇の向上につなげることを目的とした」等

【事例(もしくは活動)の概要】

実践の対象、方法の概要について、具体的な行動や手順を記載してください。

- 例) どのような対象に(誰に)、何を、どのように行ったか、携わった人を含めて
実践状況の記載(個人情報保護に留意して記載)

【結果】

得られた結果の事実に基づき記載してください。

- 例) 事例報告の場合:本人(利用者)の心身の状況や考えの変化等

【考察】

得られた結果から何が言えるかについて、考えられる原因や影響などを記載してください。
この結果から得られた結論と今後の課題を簡潔に記載してください。

- *【倫理的配慮】および【利益相反(COI)】は、登録フォーム内で記載。
抄録本文への記載は不要です。

